

寺尾廃寺 ～国分寺の瓦を葺いた幻の寺～

今から1300年ほど前、新河岸と寺尾の境あたりに寺院がありました。昔、上新河岸地域の畑で、地元の人が瓦を拾ったことが発見のきっかけとなり、「寺尾廃寺」と名付けられました。長く謎の寺院でした。

ところが最近、その瓦は奈良時代に聖武天皇の発願で諸国に建立された国分寺のひとつ、武蔵国分寺(国分寺市)の屋根を葺いた瓦と同じ型で作られたものであることが分かってきました。国分寺と同じ瓦の使用は、その造営工事に貢献が大きかった豪族に対して、褒美として許されたものであると言われています。このことから、奈良時代中ごろ、新河岸や寺尾地域が有力豪族の支配内に含まれていたと考えられます。その候補者の一人に、物部広成の名が上がっています。彼は恵美押勝



瓦の文様は、蓮の花を意匠化したものです

の乱平定に尽力した人物で、その功から入間宿禰を賜わり、奈良時代の後半には中央でも活躍しました。

瓦は、企画展「古代入間郡の役所と道」で展示されています。千年以上の時を超えてきた出土品を通して、古代の川越に思いをはせてみてはいかがでしょうか。

企画展「古代入間郡の役所と道」

日程：5月10日(日)まで 経費：入館料

農業ふれあいセンター



農政課 ☎224-5939

農業ふれあいセンターは、市民と農業とのふれあいを目的とした施設です。市民農園や調理室のほか、多目的ホールや屋外広場などを備えた交流の場になっています。

同センターでは、田植えやサツマイモ掘りなどの「農業体験」、手打ちそばや田舎まんじゅうなどの伝統的料理を学べる「ふるさとの味伝承学級」など、農業に関するさまざまな催しを行っています。なかでも最も盛り上がるのが「かわごえ

春の農業まつり」。毎年4月29日に開催され、魚のつかみ取りや泥んこ遊び体験、地元産の食材を使って作る「川越汁」の無料配布など大人から子どもまで楽しめるイベントが盛りだくさんです。



泥の中にカエルを発見!

季節はすっかり春。暖かな陽気や花々を楽しみながら、農業まつりへ足を運んでみませんか。

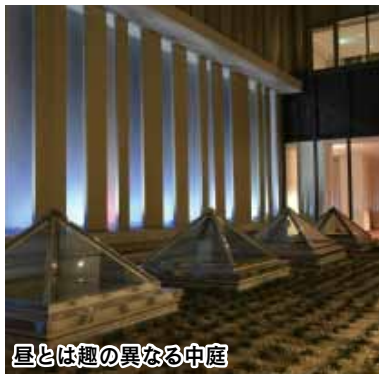
※「かわごえ春の農業まつり」について詳しくは、3月25日発行の広報川越・15ページでお知らせしています。

今が旬! 4月の川越野菜 市内の直売所などで購入できます

カブ、ホウレンソウ、トマト、キュウリ、コマツナ、ブロッコリー、ネギ、イチゴ、キャベツ、ダイコン、ミズナ、タマネギ、のらぼう菜、レタス、春菊



伊佐沼



星とは趣の異なる中庭

です。4月からは市民活動・生涯学習施設などが供用開始されたウエスタ川越は市、県、民間が一体となった複合型拠点施設です。エントランスや中庭は光の入り方が時間帯によって刻々と変わり、さまざまな表情を見せてくれます。スタートを切った新たな川越の顔。これからの新たな風

編集後記
どんぐり